

FOR DRIFT USER

サーキット

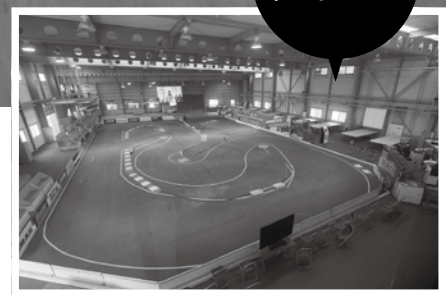
RADI-DORI IMPRESSION

◆◆◆◆

Vol.1



今回の
テストコース



国内でもトップクラスの広さの谷田部アリーナのドリフトコースにてTS120Aのパフォーマンスをチェックした。

全日本でプロトタイプがデビュー！
ジーフォース製ESCのドリフトの実力は？

G FORCE TS120A

価格 / 1万5225円
問い合わせ / ジーフォース phone 03-5299-0090

本誌P120の
製品インプレも
CHECK!

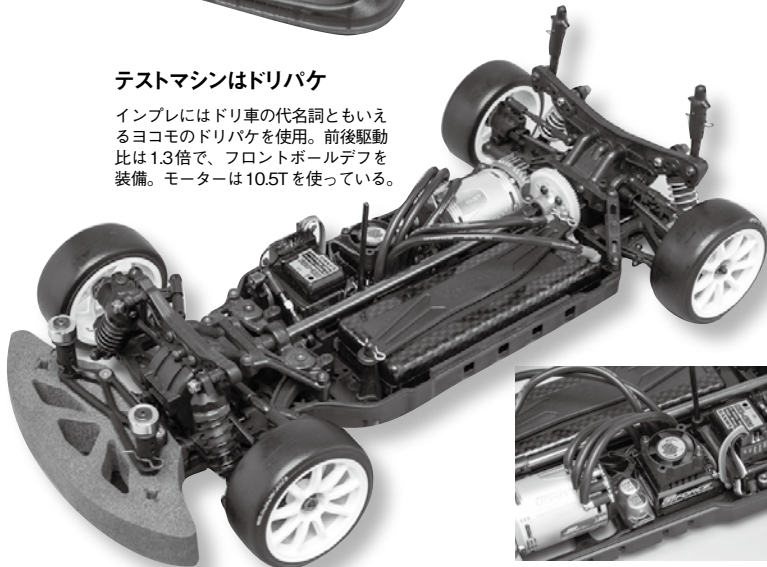
スイッチを本体に搭載し、クーリングファンやPROGBOXとの通信ケーブルも付属。ブラックのケーブルが付属し、ケーブルカラーを統一できるようになっているのが斬新。

セッティング変更を可能にするほか、バッテリーモニターやモーターテスター機能なども装備。価格2940円



テストマシンはドリバケ

インプレにはドリ車の代名詞ともいえるヨコモのドリバケを使用。前後駆動比は1.3倍で、フロントボールデフを装備。モーターは10.5Tを使っている。



奥津秀昭

ドリフトシーンに造詣の深い奥津がインプレを担当。ESCのセッティング幅の広さに興味津々で、全国のサーキットでテスト予定だ。

ケーブルがブラックで統一されていることやスイッチが本体に内蔵されているので、スッキリと搭載できるのもTS120Aの魅力。

操縦スタイルに合わせた セッティングも容易

本体に搭載されたスイッチや配線がしやすい端子形状、さらにブラックのケーブルが同梱されるなど、マシンへの搭載と配線の容易さがTS120Aの商品単体としての魅力。ではドリフトにおける走行性能はどうだろうか？ まずスロットルに対するレスポンスのよさが際立つ。アクセル量に対してしっかりと出力がでてくるので、マシンを思いど

おりにコントロールすることが可能。それもそのはず、先日行われた1/10電動オフロードカー全日本選手権でプロトタイプがデビューし、チームアザラシとDVTopという競技専門メーカーがプログラムの開発を行っているというのだから、その鋭いレスポンス特性にも納得。さらに専用のプログラマカードPROGBOXを使えば、出力特性だけでなく、ブレーキの効かせ方やブリスト&ターボなども細かく調整できるといふ。さっそくPRROGB

OXで設定変更して、走りがどう変わるのか、試してみることにした。ドリフトでは重要となるブレーキ系のプログラム、ドラッグブレーキとブレーキ強度の2項目を試した。数値を何度か変更してみたところ、ドラッグブレーキは20%付近、ブレーキ強度は60%付近がもっともコントロールラブルだった。この他にも設定項目は多岐にわたり、好みのプログラムを作ること可能である。次回はより深くプログラム変更をテストしていく予定だ。